4. ユニバーサルデザイン調査

子ども・お年寄り・外国人など一般利用者も含めた幅広い方々が利用しやすい国立公園づくりを 念頭に、ハード・ソフト両面の調査を行って具体的な改善策を検討する。

(1) ユニバーサルデザインとは

ユニバーサルデザインとは、「年齢、性別、能力、国籍などの違いにかかわらず、はじめから、 すべての人にとって安全・安心で利用しやすいように、建物、製品、サービスなどをデザインす る」考え方である。(アメリカの建築家でノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセン ター所長であった故ロナルド・メイス氏によって提唱された概念)

次の7つの原則が基本となっている。

- ①誰にでも公平に利用できること (誰にでも利用できるように作られており、かつ、容易に入手できること)
- ②使う上で自由度が高いこと (使う人の様々な好みや能力に合うように作られていること)
- ③使い方が簡単ですぐわかること (使う人の経験や知識 言語能力 集中力に関係なく 使い方がわかりやすく作られていること)
- (使う人の経験や知識、言語能力、集中力に関係なく、使い方がわかりやすく作られていること) ④必要な情報がすぐ理解できること
- ⑤うっかりミスや危険につながらないデザインであること

(使用状況や使う人の視覚・聴覚などの感覚能力に関係なく、必要な情報が効果的に伝わるように作られていること)

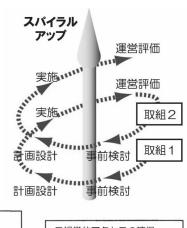
- (ついうっかりしたり、意図しない行動が、危険や思わぬ結果につながらないように作られていること)
- ⑥無理な姿勢を取ることなく、少ない力でも楽に使用できること (効率よく、気持ちよく、疲れないで使えるようにすること)
- ⑦アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

(どんな体格や姿勢、移動能力の人にも、アクセスしやすく、操作がしやすいスペースや大きさにすること)

国立公園においては、環境省により「国立公園集団施設地区等ユニバーサルデザインガイドライン」が定められており、「優れた自然景観から誰もが感動や喜び、安らぎを得られる環境づくり」を目的として、「保護と利用のバランスのとれたユニバーサルデザイン」「魅力資源へのアクセスレベルを考える」「選択できる利用環境と必要な情報提供」「五感に訴える環境づくり」「本物に触れて自然を感じられるようにする」「多様な利用者に応じた配慮」「誰にでも情報が伝わるための工夫」「さまざまなソフト方策で活動の幅が広がる」「スパイラルアップのための点検評価」などの視点が掲げられている。

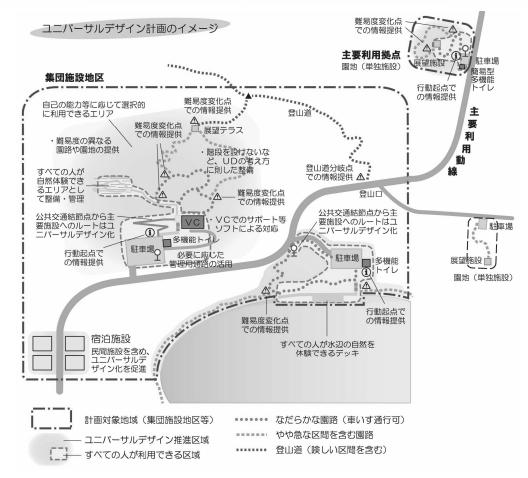
ユニバーサルデザインの詳細については下記の資料を参考にされたい。

- ○ユニバーサルデザイン政策大綱(国交省)(平成17年7月)
- ○長崎県福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル(平成17年6月30日)
- ○長崎県ユニバーサルデザイン推進基本指針(平成17年7月)
- ○国立公園集団施設地区等ユニバーサルデザインガイドライン(国立公園集団施設地区等ユニバーサルデザイン調査検討業務報告書)(平成21年2月)
- ○国立公園集団施設地区等ユニバーサルデザインガイドライン要約版(平成 21 年 12 月)
- ○自然公園公共標識の標準表示例(平成22年)



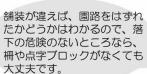


季節や天候によっては本物の魅力資源を体験できない場合もあることを考えれば、魅力資源の代替的体験方法を備えておくことは、ハンディキャップのない利用者にとっても望まれることです。



多様な利用者に応じた配慮

ユニバーサルデザインは、できる限りすべての人にとって利用しやすい施設や環境づくりを目指すこと から、高齢者、障害者、外国人など多様な利用者の特性を理解して、適切に配慮した施設整備と管理運営 が必要となります。



景観に配慮した石畳で も、車いすで通行する と、舗装の凹凸から振 動が伝わってきて不快 を感じます。



園路の配慮の例

園路は景観に大きく影響を与える施設 であるため、利用しやすさと景観のバ ランスに配慮することが重要です。

> 広い園路を作って自然や景 観を損なうよりも、すれ違 える場所があれば、通れる 幅の園路で十分です。

休憩施設の配慮の例

休憩施設は、快適に利用できるとと もに、みんなが一緒に休めるように する配慮が求められます。

> テーブルに膝下の空間 があれば車いすの人も 一緒に使えます。

ベンチの横に空間があ れば、車いすで並んで 座れます。



展望施設の配慮の例

所も必要です。

子どもや車いす使用者の視線から も見えるように、手すりの高さや 形状を工夫します。

にします。

車いすやベビー カーがデッキか ら落ちないよう



見えない人のためには、 風景をイメージして感動 を伝えられる触知型の解 説板などを工夫すること

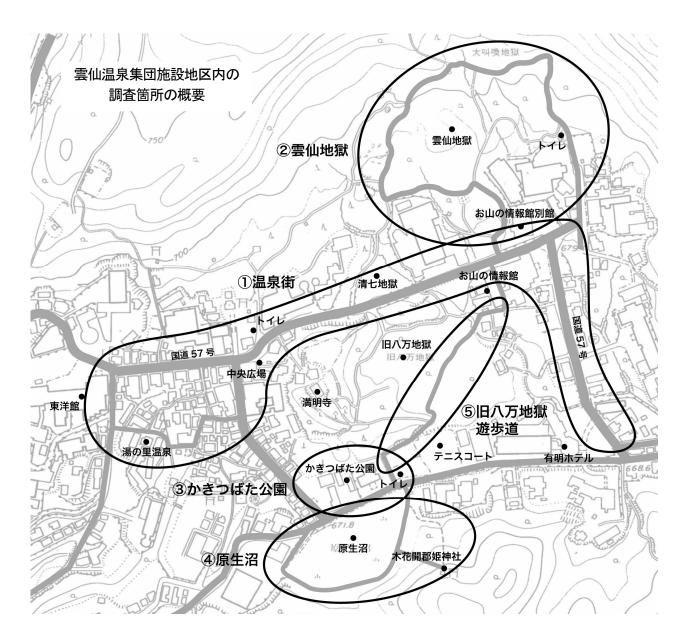
(2)集団施設地区、園地、野営場に関する現況の課題と今後の改善策

集団施設地区、園地、野営場のユニバーサルデザインに関する現地調査の結果を踏まえ、現況の課題と今後の改善策をとりまとめる。

調査実施日: 2010年11月21日(日)~11月23日(火)

調査箇所:雲仙温泉集団施設地区及び白雲の池、諏訪の池集団施設地区、垂木台園地、仁田峠

園地、池ノ原園地、宝原園地、田代原野営場



■1-1 雲仙温泉集団施設地区 ①温泉街













【主な問題点・特性等】

(点字ブロック)

- ・歩道の幅員が変わる地点で点字ブロックが ずれている。 (写真 A)
- ・点字ブロックがマンホールを避けるために、曲線になっている。(写真B)
- ・交差点横断歩道前の点字ブロックが進行方 向に対して垂直になっていない。 (写真 C)
- ・バス停前の点字ブロックが途切れており、また歩道幅員が狭いため危険。(写真 D・E)

【現場写真】 A











- ・グレーチングや U 字溝蓋の穴に杖がささる。(多数有り)(写真F)
- グレーチングが錆びて腐れている。
- ・建物敷地から車道への出入口と歩道が交差 する部分に急な高低差があり危険。(**写真 G**)
- ・路面がガタガタで車いすの移動が困難。
- ・歩道中央に段差がある。
- ・歩道と建物敷地に段差がある。 (写真 H)





【主な問題点・特性等】 【現場写真】 (階段) ・階段の色が一色で見づらい。(写真 I) (障害物) ・車止めが視覚障害者にとって危ない。(写真 J) ・歩道に枝が飛び出しており、視覚障害者やベビーカーの子供が危険。・店舗の商品が歩道にはみ出している。(写真 K) ・歩道に車が停まっている。 人

- ・外国語表記のサインが少ない。
- ・街灯がなく夜間の歩行が危険。
- ・歩いて楽しいと思わせる工夫が必要。
- ・突然歩道が終わって段差となり、車いす使 用者の介護者がいても対応できない場所があ る。 (写真 L)
- ・点字ブロック等、連続性にかけている。
- ・車通りの多い交差点に信号がなく、渡るのが危険。(写真 M)
- ・まちの駅で「シニアカー」をレンタルして いるが、あまり使われていない。





【改善の方向性・方法】 ★ハード整備 ◎ソフト整備

★点字ブロックの改善

温泉街の歩道全般に点字ブロックが設置されているが、直線でなく位置がずれている、横断歩道前で進行方向に垂直になっていない、途中で途切れている、路面の色と区別がしにくい(視認性が低い)など問題が多くあり、全般的な改善や見直しが必要である。

★段差の解消・改良

路面や段差の問題として、杖がささりやすいグレーチングや側溝蓋が多数見られる、路面がガタガタで通行しにくい所がある、歩道上の段差がいくつか見られる、特に建物の敷地や入口付近と歩道との間に段差や急な傾斜が多く見られる、などがあげられる。全般的な段差解消・改良が必要である。

★◎障害物の改良・撤去

通行の物理的な障害物が少なからず見られる。気付きにくい車止めや、歩道に飛び出している枝、店舗から歩道にはみ出している商品、歩道上に停まる車などが、特に視覚障害者やベビーカーには非常に危険であり改良が求められる。

◎サインの改良

外国語表記を徹底するなど、サイン全般を一度見直す必要がある。

■1-1 雲仙温泉集団施設地区 ②雲仙地獄



(トイレ)

・清潔感に欠ける。(写真 G)

・サイレンの伝わり先など、緊急時の対応方

法が目に見えるようにした方がよい。





【現場写真】 【主な問題点・特性等】 (案内) ・入口に案内板がない。(情報が少ない) (写真 A) ・案内にスロープと階段位置がわかる図があ るとよい。(写真 B・C) ・案内がなく入ってよいかわからないスペー スがある。(写真 D・E) C Ε ・傾斜の途中に平らなスペースがあるとよい (車いす使用者の休憩スペース)。 ・園路脇の左右の立ち上がりがあるところと ないところがあり、連続性がないため危険 (視覚障害者は白杖で触り道幅等を確認する ため、園路脇の左右に立ち上がりが必要)。 ・手すりがないところなどは、地獄の景観に 見とれると歩くのが危険。 ・勾配が大きく高齢者など歩くのが大変。 ・園路に飛び出している木の枝が目に入る危 険あり。 ・階段の手すりの高さが低く、またステップ から遠いため使いづらい。 (写真F)

(その他)

- ・眺望点に木が茂り景色が見えない。 (写真 H)
- ・お湯や植物を触ることができるなど、五感 で楽しめる工夫が欲しい。



【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★◎入口のサインの充実

入口が何ヶ所かあるが、場所によっては表示サインがなく入口がはっきりしない、案内マップが無いなどが来訪客に不安を与える要素となっている。

またスロープの位置や勾配、階段の位置、車椅子で行けるルートなどを入口で示した方がよい。

★◎園路の改良

傾斜の途中に平らなスペースを設ける、歩道脇の左右端部の立ち上がりは連続して設置する(視覚障害者は白杖で触り道幅等を確認するため、園路脇の左右に立ち上がりが必要)、手すり設置を全体に徹底する、特に傾斜部や階段部の手すりは高さや握りやすさに注意し改良する、園路上に飛び出ている木の枝を処理するなど、園路全般を一度改良し安全・安心に歩けるようにすることが必要である。

★◎トイレの改善

清潔感という点で改善の余地がある。また扉の開けやすさ、非常設備の状態など、定期的に点検し 必要な改善を行わなければならない。

★◎五感で楽しめる工夫

眺望点では通景伐採をする、お湯や植物に触れる場所を設ける、噴出の音を感じる場所を設けるなど、五感で楽しめる工夫がもっとあってよい。

■1-1 雲仙温泉集団施設地区 ③かきつばた公園







【主な問題点・特性等】	【現場写真】
(案内) ・案内板の位置が高く車いす使用者は見えない。 (写真 A)	A
(園地、園路) ・園路が整備されていない。(写真B) ・ベンチは立上りやすくする工夫が必要 (手すりを設置する、座の高さに差をつける等)。(写真C) ・水飲み場が使用できない。(写真D) ・公園入口のスロープの路面がガタガタ。 ・休憩小屋に段差があり車いす使用者が利用できない。	B C
(トイレ)・トイレ室内が清潔感に欠ける。(写真E)・トイレの非常ボタンがどこに繋がるのか不明。	E
(沿道) ・横断歩道前の点字ブロックが進行方向 に対して垂直になっていない。 (写真 F)	F

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★園路の設置

高齢者や車椅子使用者にとっても利用しやすい公園にするためには、ある程度の園路の設置が必要である。それに合わせて、東屋へのアクセス性の改善(段差の解消)等も必要となる。

★設備の改善

案内板の設置位置の改善、ベンチは立ち上がりやすいように手すりを設置する、いくつか高さの違うベンチを設ける、点字ブロックは正しく設置しなおすなどハード面でいくつか改善すべきものがある。

◎トイレの改善

トイレは掃除や手入れを徹底して清潔感を保つ、非常ボタンなど設備について不安を解消する表示をするなど、改善の余地がある。

■1-1 雲仙温泉集団施設地区 ④原生沼







【主な問題点・特性等】

(案内板) (写真 A)

- ・ 色が薄く見づらい。
- ・現在地がわからない。
- ・広域の案内は場所によっては必要ない。現 在地周辺についてもっと詳細にわかりやすく 表示した方がよい。
- ・コース周遊に要する時間の情報がほしい。
- ・文字が小さく見づらい。
- ・野鳥の案内板などがあるとよい。
- ・眺望点に案内があるとよい。 (写真 B)

(園地、園路)

- ・車いす使用者が休憩できるスペースがない。
- ・部分的に遊歩道の勾配が大きい。
- ・木の枝が園路に飛び出しており危険。(写真C)
- ・部分的に床材が変わり滑る。(写真 D)
- ・部分的に歩道の立ち上がり(視覚障害者が白杖で触るためのもの)がない。(写真 E)

【現場写真】











(木花咲耶姫)

- ・見晴らしを見せる整備が必要。(写真F)
- ・坂が急で特に下りが危険。
- 案内がない。
- ・近年作った性的象徴物は国際的な観光地に ふさわしくないのでは。



【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★◎説明サイン等の充実

入口付近の総合的な案内板は、色が薄く見づらい、現在地がわからない、文字が小さく見づらいなどデザイン的な質が著しく悪いため、作り替えが必要である。その際、温泉街全体の広域の地図だけでなく、原生沼近辺の詳細な地図も設置した方がよい。周遊に要する時間も示した方が親切である。また周遊歩道上にも、適当な地点ごとに説明サインがあった方がよい。

★◎園路の全般的な改良

一部に滑りやすい路面材が使われている、部分的に端部の立ち上がりが無い(視覚障害者は白杖で触り道幅等を確認するため、園路脇の左右に立ち上がりが必要)、勾配がきつい所がある、木の枝が園路上に飛び出して頭にあたるなど、いくつかの問題を解決する必要がある。途中に足休めをする場所、車椅子で入れる休憩場所などがあるとよい。

■1-1 雲仙温泉集団施設地区 ⑤旧八万地獄遊歩道







【主な問題点・特性等】 【現場写真】 (案内) ・かきつばた公園から旧八万地獄に向かう遊 歩道。この道がどこへ向かっていくのかわ からず不安になる。入口に案内が欲しい。 (写真 A) ・遊歩道の途中の案内板で現在地がわからな い。(写真 B) ・階段があるので車いすが通れないことを知 らせる表示がほしい。 (園路) ・園路に枝が飛び出しており危険。(写真 舗装のブロックが浮いて段差になっており つまずく危険。(写真 D) ・階段の色が一色で見づらいところと(写真 E) 、コントラストがあり見やすいところ がある。 (写真 F)

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★◎丁寧で親切なサインの設置

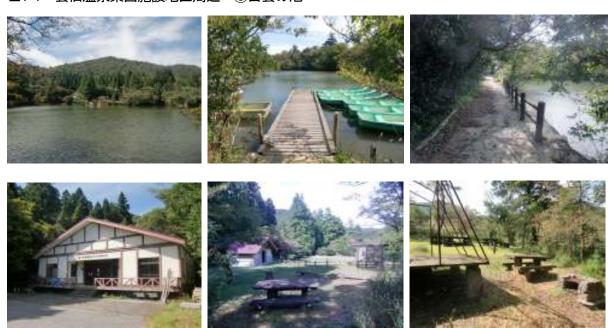
遊歩道のルートが複雑なため、入口での案内のほか、経路上や分かれ道において現在地を示すなど 丁寧な案内が必要である。

またルート途中に階段があることを、入口のサインで車椅子使用者のために示すことも必要である。

★◎園路の改善

園路に飛び出している枝の処理、舗装材の浮き等による段差の解消、階段踏面の端部の視認性の向上など、通行の円滑性を高めるために全般的な対策が必要である。

■1-1 雲仙温泉集団施設地区周辺 ⑥白雲の池



【主な問題点・特性等】 【現場写真】 (案内) ・案内板のなかに登山に要する時間と歩車道 の図の表記があり親切。(写真A) (園路) ・入口の柵で車いす使用者が入れない。(写 ・アプローチの舗装がガタガタ。(写真C) 駐車場にグレーチングがある。 ・池の周りの舗装は歩きやすい。(写真 D) C (キャンプ施設) キャンプ施設はバリアフリー的に見ると、 障害をもっている人が利用するには難しい が、体験学習などアクティブに遊ぶ施設とし てはよい。(写真E)

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★入口付近のアクセス性改善

車いすでもアクセスできるよう駐車場近くの入口のゲートの作り替え、その付近の舗装の貼り替えなどが必要である。特に自然石をまばらに埋めた路面は一般の歩行者にとっても歩きづらく大きな問題である。

★周遊歩道のバリアフリー化・快適化

池を周遊する歩道は、部分的に残る段差の解消など、お年寄りや車椅子使用者でも快適に使える仕様とする必要がある。足を休める場所なども所々に設けるとよい。

■1-2 諏訪の池集団施設地区



【主な問題点・特性等】 【現場写真】 (ビジターセンター裏の遊歩道) ・案内板に表記している車いすルートがわか りづらい。(写真 A) ・車いすルートなのに、園路に段差がある。 (写真 B) ・野鳥観察スペースの床が滑る。案内板の高 さが高い。(写真 C) ウッドチップの路面は柔らかすぎて車いす。 では通るのが困難。(写真D) ・スロープの手すりが2段あり、途中には踊 り場があることがよい。(写真E) ・スロープの手すりに点字があり親切だがコ ースルートと逆方向。コースの案内がほし い。 (写真 F) ・ 案内板を見る立ち位置に枝葉があり見えな 1 Ε (休暇村雲仙本館〜ビジターセンター道路) ・2人で歩けるスペースが欲しい。子連れや 車いす使用者は移動が困難。(写真G) ・園地への入口がわかりづらい。(写真 H) ・ビジターセンター駐車場前の交差点に横断 歩道がない。(写真 I) ・グレーチングの穴に杖が入り危険。

【主な問題点・特性等】 【現場写真】 (諏訪の池) ・案内板に周遊に要する時間の表示がほし い。 (写真 J) ・身体障害者がボートに乗れない。(写真K) 池の周りがガードレールではさみしい。 ・ところどころに木の突起があり危険。(写 真L) (キャンプ施設) 入口がわかりづらい。 ・駐車場からの道がガタガタで穴もあり危 ・路面が整備されておらず車いすの人がキャ ンプ場内で移動できない。(写真M) (休暇村全体) ・車が減速する仕組みや歩車分離の対策が必 要。(写真 N) ・敷地が広いのに休憩する場所が少ない。 ・2000 年にバリアフリー対策を施したにもか かわらず中途半端。県によるチェック体制が 不明。 予算上ハード整備でできることは少ないと 思うが、それを補うメニューを考えることは 可能。例えば、葉を触って違いを見分ける、 匂いをかぐなど五感で感じられるような工夫 があれば、子供から高齢者、障害をもってい る人など皆が楽しむことができる。

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★◎全体の歩行ネットワーク形成とスポットづくり

地域住民が散策等でも利用しているようだが、ゆっくり安全に歩ける歩行ネットワークを形成する 必要がある。歩車を分離して安全な歩行路のみで園内全体を巡り、アクセスしたい場所へアクセスで きることが求められる。車がスピードを落とすための路面上の工夫や、歩行路が車道を渡る箇所には 横断歩道を設けることも必要である。

そのネットワーク上に適当な間隔で休憩スポットを設けていく。

自然豊かな散策ネットワーク上に、葉っぱを触る、匂いをかぐ、耳を澄ませるなど五感を使って感じるUD発想のスポットをいくつか設けることが考えられる。

★園路上の問題改善

園路に関する問題として、段差がある、ガタガタで穴のある箇所がある、滑りやすい箇所がある、ウッドチップは柔らかすぎて車椅子は通行困難、二人が並んで歩ける路巾が望ましい、グレーチングの溝に杖が挟まり危ない箇所がある、など課題を抱えている。新たなネットワーク形成と同時にUDの視点からの全般的な改良が必要である。

◎樹木や施設の適切な管理

生い茂った植栽のために、案内板が見えない、園路を歩くと頭に枝がぶつかるなど問題が発生している箇所が少なくない。また自然観賞スポットの施設自体の傷みが激しい箇所もある。全体的に、施設の管理や樹木の手入れなどが正常になされなければならない。

★◎サインの改善

園内の各スポットで、入口がわかりづらい箇所がいくつかあり、場所表記のサインを増設する必要がある。

園内が広大なため、案内板には周遊に要する時間の表記が必要である。また車椅子ルートが表記されているが非常にわかりづらく、改善が必要である。

案内板の高さが高すぎる、スロープ手すりの点字表記に間違いがあるなど、細かな問題点も解消していく必要がある。

◎五感で体験できるプログラム等の提供

予算上ハード整備でできることは少ないと思うが、それを補うメニューを考えることは可能。例えば、葉を触って違いを見分ける、匂いをかぐなど五感で感じられるような工夫があれば、子供から高齢者、障害をもっている人など皆が楽しむことができる。

■1-3 垂木台園地







【主な問題点・特性等】

- ・路面が滑る。(写真 A)
- ・園路の途中で立ち上がり(視覚障害者が白杖で触るためのもの)がなくなる。
- ・園路に点字誘導がない。
- ・説明不足で意図が分からない屋外展示がある。
- ・案内板が木に隠れて見えない。(写真 B)
- ・坂道だが手すりがない場所がある。
- ・木床がはがれており危険。
- ・展望台に車いすで行けない。(写真 C)
- ・階段が滑る。色のコントラストがなく危険。 (写真 D)
- ・避難シェルターの前に手すりと外国語表記 があるとよい。 (写真 E)
- ・ロープの手すりは触りたいと思わない。

【現場写真】 A B C C D E E

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★手すりの充実

手すりが特に必要な坂道に手すりが無い、ロープの手すりがある(使う気持ちになりにくく実際に 危険)、避難シェルターに入る手前段差部分に手すりが無いなど、手すりの問題が目立つので全体的 な改善が必要である。

★路面の問題改善

路面が滑りやすい(特に雨天時)、園路の左右端部の立ち上がりが途中でなくなる(視覚障害者は 白杖で触り道幅等を確認するため、園路脇の左右に立ち上がりが必要)、点字誘導が無い、木板が剥 がれていて危険など、路面に関する問題が多くあり、改善が急がれる。

★階段の問題改善

展望台には階段を上らねばならず、車椅子で行きにくいと利用者からの指摘もある。車椅子で行ける範囲内に展望スポットを設け、展望台同様の展示や仕掛けを用意する必要がある。

木板の階段は雨天時や雨天後に特に滑りやすく、大きな事故が起きる前に滑り止めなどの対策が必要である。また色のコントラストがなく視認しにくいので、踏み板の端部に色を付けるなどの配慮が必要である。

★◎展示・サインの改良

管理不足や説明不足で、意味や意図がわからない展示物があり、改良が必要である。また案内板の一部は、木に隠れていて見えなくなっている。生育する雑草や樹木への管理を徹底する必要がある。 シェルターはいざ使う時のために外国語表記も必要である。

■1-4 仁田峠園地(第一展望所)







【主な問題点・特性等】

- ・車いすでロープウェイの乗り場の手前(第一展望所)まで行けるが(写真 A)、ロープウェイには乗ることができない。(写真 B)
- ・施設内の階段が急でエレベーターもないため 車いすでは 2 階に上がることができない。 (写真 C)
- ・案内板に他言語表記がない。
- ・トイレは多機能トイレがない。扉は重く、便 座は冷たい。トイレ内に灰皿が置いてある。 (写真 D)
- ・全体的にUDに対する意識が低い。

【現場写真】









【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★ロープウェイ乗り場のアクセス改善

車椅子で乗り場の手前までは行けるが、その先は階段で上がれない。ロープウェイ自体、完全なバリアフリー化には困難が伴うが、いずれは抜本的な改良が検討されるとよい。また高齢者や障害者向けに手すりの設置、段差の解消等は短期的に整備が必要である。

★◎販売施設のアクセス·利便性等改善

点字ブロックの不足、ブロック上への障害物の設置、店内の狭さや異動のしにくさ、トイレが多機能トイレでない、トイレの扉が重いなど、使いにくさが目立っている。全体的にUDの視点からの改良が必要である。

★◎サイン等の改善

案内板の外国語表記など、全体的なリニューアルが検討されてよい。

■1-5 仁田峠園地(第二展望所)





【主な問題点・特性等】

- ・歩道端部の立ち上がり(視覚障害者が白杖で触る ためのもの)がない。
- ・階段が急で車いす使用者は上れない。(写真 A)
- ・階段の色が一色で見づらい。
- トイレ近くの展望台に柵がなく、子供などが転落 する危険がある。
- ・多機能トイレがない。入口に段差がある。 (写真B)
- ・案内板の字が小さくわかりづらい。

【現場写真】





【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★誰でも使える展望場所の確保

展望台に上がるには急な階段を登らねばならず、利用できる人が限定的。車椅子利用者や歩くのに 苦労する人のために、駐車場からフラットなレベルで展望できるスペースを1ヶ所設けることが必要。

★誰でも使えるトイレの確保

急な坂道を下りていかないとトイレが使えない。トイレ入口に大きな段差があり、また多機能トイレがない。現在のトイレのアクセスを改善し、内部改修あるいは増築をするか、駐車場レベルでアクセスできるトイレを設置するかの対策が必要である。

★視認性の改良

階段の色が一色のため段差を見分けにくい、案内板の字が小さくわかりづらいなど、全体的に視認性の改良を行う必要がある。

■1-6 池ノ原園地







【主な問題点・特性等】 【現場写真】 ・ゴルフボールが飛んできて危険。 (写真 A) ・段差に色がついており見やすい。 (写真 B) ・駐車場に車いす使用者用スペースがあるが、 園内はバリアフリーとなっていない。 (舗装が整備されていない。段差がある) (写真 C) A

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★アクセス面の部分的改善

全体として傾斜地に立地しているため、バリアフリー化やスロープ設置等によるアクセス面改善を 無理に進める必要は無い。ただし、駐車場やトイレまわり、今後活用を図っていく主要なスポット等 にはアクセスしやすい傾斜路等を整備する必要がある。

★◎サインのリニューアル

案内板等のサインは老朽化が進んでいるものもあり、リニューアルが検討されてよい。また園地内に登山道が走っていることもあり、誘導サインのリニューアルや充実、外国語併記等の対策が今後検討されてよい。

■1-7 宝原園地







【主な問題点・特性等】 ・車い寸駐車場が3台あるが、歩道に段差があり上れない。(写真A) ・案内板に段差や勾配の表記があるのはよいが、バリアフリールートでも車いすで進めない。(実際の勾配は大きく、舗装整備されていないところがある)(写真B・C・D) ・案内板のカラーがわかりづらい。 ・トイレのサインがわかりやすく、おもしろい。(写真E)

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★
 ◎間違ったバリアフリー情報の改善

案内板にはいくつかのルート上の段差や勾配の表記が丁寧になされているが、バリアフリールート に従って車椅子で進むと、勾配が大きい、舗装整備がされていないなどで実際には進めない箇所が多 数ある。間違った情報は削除する必要がある。また最低限の1ルートだけでもよいので展望台まで車 椅子で上がれるルートを丁寧に整備する必要がある。

★◎サインの視認性改善

案内板の色づかいがはっきりせず、非常に見にくい。弱視者だけでなく一般の人にもわかりにくい。 改善の必要がある。

★アプローチの改善

車椅子利用者等専用の駐車スペースが3台分あるが、そこから車椅子を使うと歩道の段差があり園内に入れない。段差切り下げを適切な場所に行う必要がある。

■1-8 田代原野営場







【主な問題点・特性等】

- ・外国語表記のサインがない。外国人が好む と考えられる場所なので英語等の表記があ るとよい。
- サインが色あせている。(写真A)
- ・多少苔があり滑りやすい。
- ・園路や管理棟、炊事棟などに段差があり、 車いす使用者は利用が困難。(写真 B)
- ・渡りの手すりの高さが高く、車いす利用者 の視線を遮る。(写真 C)
- ・園路に木が飛び出している。

【現場写真】 A B

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★◎園路移動の円滑性等の改善

園路を主要な交通路として移動したり各施設等にアクセスする際に、一部の路面に苔が生えて滑りやすい、管理棟・炊事棟等に入る際に段差がある、園路上に木の枝が飛び出している、手すりの高さがちょうど車椅子利用者の目線にあたり風景が見えにくいなどの問題がある。これら全般的に改良を図る必要がある。

★◎サインの改善

案内板等に劣化や色あせが見られ、改善が必要である。また外国人の誘客を強化するためにも英語 表記等が必要である。

(3) センター施設に関する現況の課題と今後の改善策

センター施設に関する現地調査の結果を踏まえ、現況の課題と今後の改善策をとりまとめる。

■2-1 お山の情報館(雲仙温泉集団施設地区)









・模型に車いすで近づけない。(写真F) ・展示物は子供の目線でみると楽そうなもの

が多い。(写真 G)





【現場写真】 (駐車場) ・駐車場からのアプローチの点字ブロック上 にマットが敷かれており意味がない。 ・エントランスの柱が視覚障害者にとって危 険。(写真 A) ・一旦停止のための点字ブロックが進行方向 に対して垂直になっていない。 (トイレ) ・引き戸が重い。 ・ドアセンサーが壊れている。(写真 B・ ・荷物掛け用のフック位置が高く高齢者など 届かない。 ・洗面台にホコリが溜まっている。 В ・杖を立て掛ける場所が欲しい。 (展示室) ・展示画面が見づらい。 (写真 D) ・展示物のボタンが押しづらい。(写真 E)

D

【主な問題点・特性等】 【現場写真】 F G (屋外広場) ・点字ブロックの質や色がバラバラで、統一感や連続性がない。(写真 H) ・手すりの端が切りっぱなしになっており危険。(写真 I) ・横断歩道に点字ブロックがない。

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★外部アクセス環境の改善

施設入り口に至るまでに、特に障害者等の誘導に関しての物理的な問題が散見される。点字ブロックの不足(横断歩道上など)、配置方法の間違い、連続性の欠如(色や質の不統一)、手すりり端部の不具合など、改善の必要がある。

★自然環境情報の提供内容・方法の見直し

館内では島原・雲仙の自然環境に関する情報が様々な方法・媒体により提供されているが、車椅子利用者や視覚障害者の場合、情報にほとんどアクセスできない、または非常にアクセスが難しい箇所がみられる。島原及び雲仙の自然情報の拠点として中心的役割を果たしている施設だけに、どのような人にでも一定の情報を提供できる環境となっているかどうか、総合的な点検と見直しが必要である。

◎アクセス情報提供の充実

地獄の遊歩道の車椅子ルートマップを作成し受付で配付しているが、そのようなアクセス情報をホームページ上で発信していくことも重要である。

◎受付でのサポート体制づくり

受付では、問い合わせへの回答、温泉街の各施設や観光スポットの紹介、館内の案内、場合によっては同行サポートなど、様々な業務を柔軟に行っているが、人員が慢性的に不足していることは否めない。観光のハイシーズン時だけでも、人員体制を十分にし、多様な来訪客のニーズに応えることが観光地の施設として必要である。また福祉関係の資格を持つスタッフを増やすことが望ましい。

◎館内設備等の点検の徹底

トイレのドアの不具合、センサーの故障などが起きている。温泉ガスの影響が強く故障が多いと考えられるが、定期的な設備系の点検と修繕を徹底することが必要である。

◎什器配置等の見直し

受付付近やフロア上に情報提供のための紙媒体や端末・什器等が多く置かれているが、効率的な情報提供のためには、それらを適切に整理する必要がある。また車椅子等での通行の妨げにならない什器配置としなければならない。

◎手入れと気遣いを行き届かせる

費用がほとんどかからず、館内スタッフの気遣いや手入れの範囲で改善できる点も少なくない。点字ブロックの上にマットを置かない、トイレのフックは使いやすいようもっと低い位置にする、洗面台に杖を立てかけるフックを付けるなど、UDの視点からの施設管理が必要である。

◎観光ガイド等

観光ガイドなど地域住民でもできることをやると魅力が増す。

■2-2 諏訪の池ビジターセンター (諏訪の池集団施設地区)













【主な問題点・特性等】

- ・展示物は五感で楽しめるものが多い。(一部車いす使用者の手が届かない展示あり) (写真 A・B)
- ・天体望遠鏡は子供にとって楽しい。 (写真 C)
- ・2階から3階の天体観測室までの階段が急 でエレベーターもないため、車いすで上が ることができない。(写真D)
- ・車いす使用者が1階から2階に上がるには 一旦外に出てスロープを通る必要がある。 (雨の日など大変)
- ・手すりに点字表記がありよい。
- ・入口の駐輪スペースの自転車が歩行の妨げになる。

【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★1階から2階へのアクセス改善

現在、1階から2階へ上がるには、一度外へ出て屋外のスロープを使う必要があり、遠回りな上に雨天時は傘を差さねばならず、ホスピタリティのある施設とはとても言えない状況にある。屋内は未活用のスペースも多く空間的余裕があるので、エレベーターや屋内スロープなどを設置し改善を図らなければならない。

★◎2階から3階(天体観測室)へのアクセス改善

本施設の目玉である天体観測室へ上がる方法は、狭く急な階段のみである。障害を持つ子どもが2階に一人残されるようなことが今後決して起きてはいけない。小型エレベーターやリフトの設置、人的手当の充実などの対策が必要である。

★◎情報提供機器・方法等の見直し

一部の情報提供機器に車椅子では利用できないものがあり、今後改善が必要である。 施設内部は非常に空間的な余裕があり、十分に活用されていないとも言える。多様な人が多様な感じ方ができるような手づくりの展示を大胆に行えるキャパシティがある。

◎小さな改善

サインの外国語表記など、ちょっとした手作業でできる改善を進めていく必要がある。施設入口に 置かれている貸し自転車が、通行の妨げになっているような点もすぐに改善可能である。

◎サポーターを活用した運営体制づくり

地域住民や小学校とよく情報交換してイベント企画を立てたり展示に協力してもらうような積極的な関係構築が進められており、施設に親しんで繰り返し訪れる親子や団体も少なくないようである。 その関係性を発展させて、施設利用・活用に積極的な住民グループを運営に参画させてスタッフ不足を補うような、住民共同型の運営体制づくりが検討されるとよい。

■2-3 平成新山ネイチャーセンター (垂木台園地)













【主な問題点・特性等】

- ・トイレに手すりがない。荷物掛けの位置が 高い。便座が冷たい。
- ・園内マップの字が小さい。他言語表記や多 機能トイレの場所を示している点はよい。
- ・展示物のスイッチに手作りで説明書きを添えたり、掲示板等の工夫から、誰もが施設を利用しやすくなる考慮が見てとれる。 (写真 A)
- ・展示内容は耳や手触りなど五感で楽しめる ものが多い。 (写真 B・C)
- ・展示物で一部車いす使用者が見れないものや、スペースに入れないものがある。
- ・展示物で一部言葉の表現が難しいものがある。

【現場写真】







【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★◎トイレの利便性向上

トイレが屋外に面したものしかないが、冬期には暖房便座など十分な対応をとる必要がある。また トイレ内の手すりの設置、荷物フックの高さを下げるなどの改善が必要である。

★車椅子利用者への配慮

展示物の一部に、車椅子を使用した場合に見られないものがある。また巾が狭くて入れない箇所がある。車椅子で使いやすいということは、高齢者、子ども、その他の障害がある人にとっても使いやすいということであり、そういう観点での配慮が必要である。

★◎サイン表記の改善

園内マップの字が小さい、展示物の説明文章が難解でわかりにくいなど、サイン表記・説明表記の 改善が一部に必要である。

■2-4 田代原トレイルセンター(田代原野営場)













【主な問題点・特性等】

- ・アプローチの路面が滑る。
- ・展示コンピューターが故障している。(写 真 A)
- ・スロープや手すりなどにより施設内は車い す使用者や障害者でも移動できる。(写真 B)
- ・施設の利用の仕方に工夫が必要。地域の人たちの活動拠点等としてはとても魅力的な場所となり得る。(写真 C)

【現場写真】







【改善の方向性・方法】★ハード整備 ◎ソフト整備

★◎アプローチ・トイレ等の改良

入口手前のアプローチの路面が、湿度の高い気候のせいか滑りやすくなっている。路面についての対策が必要。

トイレの利用頻度が高いので利便性を高めるリニューアルがされてよい。

★◎展示設備・情報提供等の充実・改善

情報提供端末が故障したまま3年近くたっている。その他、展示内容の充実や外国語表記のマップ等、充実・改善すべき点が多くある。ただしこれらは、当施設の運営体制の問題であり、その根本的解決が先となる。

◎運営体制のリニューアル

現在はシルバー人材センターから派遣されたスタッフが管理のみ行っている状況である。施設の改善や利活用を図っていくには、地域の団体や有志グループ等によりここを拠点とした新たな活動の展開がなされる必要があり、そのための所有者・運営者間の新たな体制構築が必要である。

(4) ワークショップの実施

ユニバーサルデザインの視点から、多様な方々に雲仙温泉街を楽しんでいただくための「おもてなし」を考えるため、専門家を招へいし高齢者や障害のある方の疑似体験を通じて、まちの良いところや気になるところ、来訪者が困ることや良い印象を受ける接客などを発見することを試みた。

そのために、体験キットや車いすを利用して「高齢者」「車いす使用者」「視聴覚障害者」「聴覚障害者」になりきり、それぞれ班に分かれて雲仙温泉街のまち歩きと旅館・店舗等の施設利用体験を行った。まち歩き後には班ごとに結果をまとめて発表し、発見した内容を参加者全員で共有した。

1) 開催要領

タイトル

~UDの視点から雲仙温泉街を考える~ 変身!ワークショップ・まちづくり勉強会開催のお知らせ

② 呼び掛け文

雲仙プラン100プロジェクトでは、子ども・お年寄り・外国人など一般利用者も含めた幅広い方々が利用しやすい国立公園づくりを念頭に、ハード・ソフト両面の調査を行って具体的な改善策を検討する「ユニバーサル化についての調査・検討」も行っています。今回、その調査の一環としてユニバーサルデザイン(UD)の専門家を雲仙にお招きし、バリア体験キット(高齢者疑似体験セット)等を用いて雲仙温泉街を歩き、ユニバーサルデザインの視点から見たまちの問題点などを「実体験」するとともに、幅広い観点からいっしょにまちづくりを考える、勉強会を企画しました。

講師の先生は、ユニバーサルデザインの専門家として知られる新潟在住の著名な方であると同時に、まちづくりの中間支援団体として新潟県下最強と言われている NPO 法人「まちづくり学校」の校長先生(代表理事)でもあります。

是非お誘い合わせの上ご参加下さい!

③ 日時、プログラム等

■日 時:平成23年4月20日(水)13:30~18:30

■集合場所:お山の情報館別館(いつものところ)

■講師: 長谷川美香さん

(ミカユニバーサルデザインオフィス代表、NPO法人まちづくり学校代表理事)

- ■コーディネーター:吉田道郎氏(雲仙プラン100策定委員会委員/梵まちつくり研究所代表)
- ■協 力:雲仙市社会福祉協議会
- ■プログラム:

13:30~14:00 ガイダンス

14:00~15:30 変身まち歩き

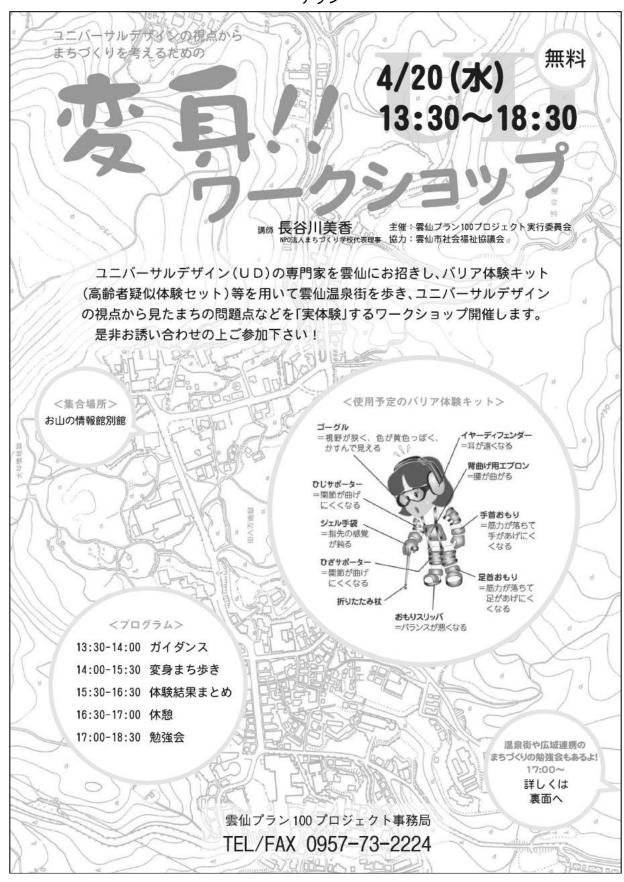
15:30~16:30 体験結果まとめ、発表・共有

16:30~17:00 休憩

17:00~18:30 勉強会

<使用予定のバリア体験キット>

- *足が曲がらない装具
- *くもって見える眼鏡
- * 音を遮断するヘッドフォン
- *杖
- *段差の違うスリッパ(大人用)
- *その他(車いす、白杖、手作りアイマスク)



ユニバーサルデザインの視点からまちづくりを考えるための

変 兵!! ワークショップ 4/20(水) 13:30~17:30

講師:長谷川美香さん コーディネーター:吉田道郎(雲仙プラン100策定委員会委員/梵まちつくり研究所代表) 主催:雲仙プラン100プロジェクト実行委員会 協力:雲仙市社会福祉協議会

雲仙プラン100プロジェクトでは、子ども・お年寄り・外国人など一般利用者も含めた幅広い方々が利用しやすい地域や国立公園づくりを念頭に、ハード・ソフト両面の調査を行って具体的な改善策を検討する「ユニバーサル化についての調査・検討」も行っています。

今回、その調査の一環としてユニバーサルデザイン(UD)の専門家を要仙にお招きし、バリア体験キット(高齢者疑似体験セット)等を用いて要仙温泉街を例にとり、まち歩きを実施し、ユニバーサルデザインの視点から見たまちの問題点などを「実体験」するワークショップを企画しました。

講師の先生は、ユニバーサルデザインの専門家として知られる新潟在住の著名な方であると同時に、まちづくりの中間支援団体として新潟県下最強と言われているNPO法人「まちづくり学校」の校長先生(代表理事)でもあります。雲仙温泉街の方々だけでなく、是非、半島の皆様、お誘い合わせの上ご参加下さい!

プログラム

13:30~14:00 ガイダンス

14:00~15:30 変身まち歩き

グループごとに一つのキットを持って会場を出発。

交代で装着しながら町を歩き、気づいた点などを記録しておく。

15:30~16:30 体験結果まとめ、発表・共有

会場に戻り、グループごとに体験結果や低減などを模造紙にまとめ、発表準備。

< 使用予定のパリア体験キット>

*足が曲がらない装具 *くもって見える眼鏡

*音を遮断するヘッドフォン

*段差の違うスリッパ(大人用)

* その他(車いす、白杖、手作りアイマスク)

その後グループごとの発表、意見交換と講師による講評。

17:00~18:30 勉強会(こちらだけでもご参加ください!!)

「変身!!ワークショップ」の振り返りを行うとともに、雲仙温泉街の特色を踏まえ、 広域連携の進め方など、幅広い観点から、これからのまちづくりを考えます。

/ 講師プロフィール

長谷川美香さん ミカユニバーサルデザインオフィス代表、NPO法人まちづくり学校代表理事

1990年代半ばから福祉環境とデザインをテーマに活動を始め、1999年、有限会社ミカユニバーサルデザインオフィスを設立。ユニバーサルデザイン (UD) の視点から住環境やまちづくりに関する企画、立案、コンサルティングを行うほか、UDに関連するシンポジウム・イベント・委員会等のアドバイザーとして活躍する。一方、2001年にNPO法人認証を受けた中間支援組織「まちづくり学校」の設立・運営に関わり、2006年、代表理事(校長先生)に就任。

/ 雲仙プラン100プロジェクトとは

「雲仙プラン100プロジェクト」とは、今から25年後、雲仙が、国立公園指定100周年を迎えるときに、どんな地域、どんな国立公園になっていたいかを切り口に、地域再生と国立公園再生を目的に、みんなが共有・共感し主体的に取り組める地域の将来ビジョンとそれを実現するためのアクションプランを創り、継続して実施していこうという取り組みです。

? お問い合わせ・お申し込み

雲仙プラン100プロジェクト事務局

TEL/FAX: 0957-73-2224 Eメール: project@unzen100.org

URL: http://www.unzen100.org/ 雲仙市小浜町雲仙320 雲仙お山の情報館別館内

④ 疑似体験内容

【高齢者体験】(1班)

体が自由に動かない体験キット(膝が曲がらないサポート、腰が上がらないサポート、 杖、耳が聞こえないヘッドフォン、視界がくもって見える眼鏡)を装着して雲仙温泉街 の移動と商店街の店舗での買い物体験を行った。

【車いす体験】(2 班、5 班)

車いすに乗って雲仙温泉街の移動と旅館・店舗の利用体験、公衆トイレの使用体験など を行った。

【視覚障害体験】(3 班)

アイマスクをつけて前が見えない状態で雲仙温泉街の移動と商店街の店舗での買い物体 験を行った。

【聴覚障害者体験】(4 班)

ヘッドフォンをつけて音が聞こえない状態で雲仙温泉街の移動と旅館・店舗の利用体験を行った。

2)調査結果

1班 高齢者体験





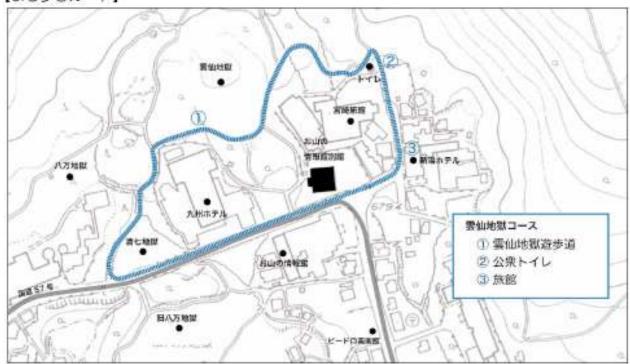






場所	どうだった	どうする
階段	登りにくい。	段差を低くする。
	降りにくい。	スロープ化。
	段差が低いと楽。	手すりの高さを杖くらいの高さにする。
	手すりがあると楽。手すりが中途半端なとこ	手すりを最後までつける。
	ろがあった。	
別館〜地獄	意外と遠い。	おしりの高さぐらいの高めの腰かけがあ
	まっすぐだとより遠く感じる。	ると楽。
	丸太の手すりの高さに腰かけるとちょうどよ	全体的にもっとベンチがほしい。
	かった。	案内が低い位置にあると良い。
	前方2mぐらいしか見えなかった。	
	突然人が前からくるとびっくり。	
場所:満明寺	行き(裏)の階段がつらかった。	(別館〜地獄) と同じ。
	ゲートボールはなるほどやりやすかった。	芝桜を植える。
	ベンチが低かった。座るとき危険!	ベンチがあるとよい。
	下り(表)の細かい階段が意外と楽だった。	
	桜が見上げられなかった。	
商店	入口に段差があると入りにくい。	やさしく接してあげる。
	商品を買う時にお金が出しにくい。	気づいたら補助をする。
	お茶が飲みにくい。	
	車道が広いと渡るのがこわい。	
	大きな声で話しかけてもらわないと聞こえな	
	V,	

2班 車いす体験







場所	どうだった	どうする
田浦商店~	坂がきつくて登れない。	人が助けてくれた。
	怖かった。	行くことが難しいことを案内したほ
	道が水勾配のため斜めで車道に落ちた。	うが良い。
トイレ	多機能トイレがあった。	車いすの方が見てもらえる地獄にな
	→そこまで車いすの方は独りでは行けな	った方がいい。
	い。意味がなさそうだ。	施設も使えるような環境になったほ
		うがよい。(自由に使ってもらえる
		ようになっているとよい)
50 周年広場	音がする。(目を閉じてごらん!)	●ゆるやかな坂の途中に踊り場がほ
	坂がキツすぎて行けなかった。	しい。
お糸地獄の上	音がする(目を閉じてごらん!)	看板がほしい。
(火山の赤ちゃ	坂がキツ過ぎて、行けなかった。	行けないことをアナウンスすべき。
ん)		
	座ってゆっくり見れる場所がほしい。	マップづくり…楽しいやさしい案

場所	どうだった	どうする
	(ベンチ)	内。介護者がいればいいよ。
	「地獄のクルーズ:ムロ体験」をした	ベンチ置き場コンクール。
	V,	HP上での案内
	視覚体験もしてみたい。	
	地獄は楽しい!!立ち止まらせる工夫を	楽しいことができそうだ!
	したい。	
園路	石畳は良いし風情もあるが目地があると	
	ガタガタして歩きにくい。	
歩道	巾が狭い。	
	道路から高い。(マウントアップ	
	傷んでいるので車いすでは歩きにくい。	

3班 視覚障害体験





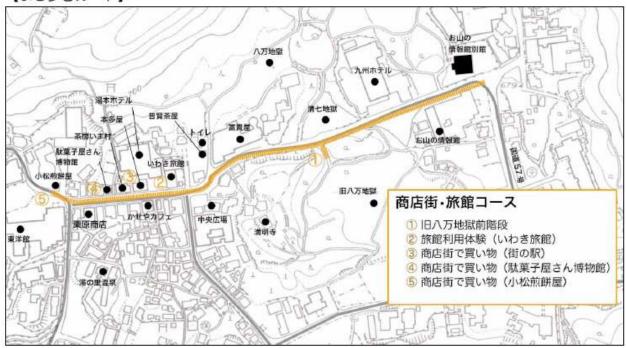






場所	どうだった	どうする
お山の情報	入口の自動ドアが怖かった。 (ガラス製も含めて)	視覚障害者に配慮した街づ
館	階段がある事が手前で分からないのが怖かった。	くりと、何よりも周囲の方
	寄りかかれる壁か手すりがないと階段は難しい。	のサポートが大事!!
	(特に下りが)	
	展示の多くが視覚で感じるものなので、目が見えな	
	いと展示内容がほとんど分からなかった。	
	エレベーター内のボタンの場所がすぐに分からない	
	ので焦る。	
	トイレの場所が分からない。洋式じゃないとムリ。	LE Windowski was E. C. C.
中央広場~	歩行者、自転車、自動車(特に音の小さい電気自動	視覚障害者に配慮した街づ
バス停	車等)が怖い。	くりと、何よりも周囲の方
	杖だけよりも、人の肩を借りているほうが安心。	のサポートが大事!!
	目が見えなくなっている分、他の感覚(嗅覚や聴	
	覚)が働く。いつもより硫黄が臭う。	
	横断歩道がどこにあるのか分かりにくい。(押しボ	
	タンや、それが付いている電柱の場所も) 横断中、音が鳴っているのは助かるが、意外と短い	
	横断中、自か鳴っているのは助かるか、息外と短い 時間で終わるので焦る。	
	- 時間と終わるのと無る。 - 広場からバス停までの道のりが危険。(点字ブロッ	
	万場からハス停までの追のサが危険。 (点子) ロケークが途中で切れている。 車道近くの細い通路を通	
	る。側溝のフタに穴が多い等)	
喫茶店	数くてコーヒーを飲むのが怖い。	
一天不归	店員が助けてくれると嬉しい。	
	一川只はウバノへへからした。	

4班 聴覚障害・車いす体験













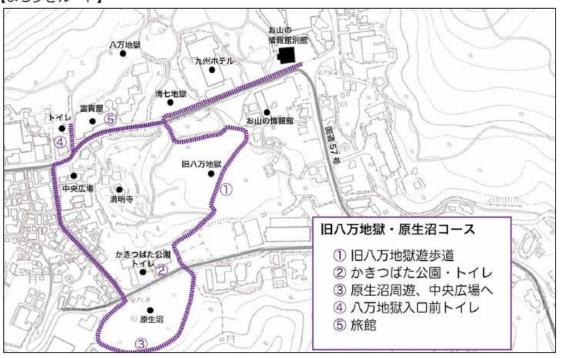




場所	どうだった	どうする
歩道	前方は見えているので不安は無いが、後 方から人が近づいている事に気付かず、	
	ハッとした。	
旧八万地獄入口	車イスで段差を乗り越える時、後ろ向きで下る際、座っている方はひっくり返りそうな気がして怖かった。また、上がる際、男性を女性が介助するのは無理であった。	段差をなくす。
島鉄前	バスが止まっていると通りにくいし、せ まい為、怖い。	
いわき旅館	筆談とジェスチャーで女将とコミュニケーション。	

5班 車いす体験

【まち歩きルート】



【まち歩きの様子】









場所	どうだった	どうする
お山の情報館前	横断歩道の歩道と車道の段差(2~3cm)	
お山の情報館の植	歩道の切り下げの傾斜が急で落ちそうになる。	
込み		
植え込み前の歩道	点字ブロックが車イスには走行しにくい。	
旧八万地獄へ降り	階段が不便だった。	スロープを設けてほ
る階段		しい。
旧八万地獄	遊歩道が石だたみで走行しにくい。石のすきまに	
	タイヤがはまる	
	路肩と柵の間にすきまがあって落ちそうで怖い。	
鬼石前階段	階段幅が狭くて車イスが上がらなかった。	
トイレ	車イスの使い方が分からなかった。広さは充分。	
歩道のグレーチン	進行方向に隙間が縦になるように設置されてお	
グ	り、車輪が落ちそうだった。	
原生沼	車イスで走行しやすかった。目線が低いので木が	
	よく見える。(広がりが感じられる)	
寺の馬場商店街通	歩道が狭い。	
Ŋ	階段がじゃまだった。	
たら福亭前	歩道の整備がされていない。	舗装
トイレ(神社前)	狭い。洗面台のつくりが車イスにあっていない。	
富貴屋	(土産物店前)民地側の段差が大きくて落ちそ	
	う。	
	バリアフリー対応のロビーでゆっくりできた。	
	(受付、売店)	
地獄遊歩道	手すりが車イスには高く、見えにくかった。(手	
	すりで安心感はあった。)	

3) 長谷川美香氏講評

普段は絶対に気付かないような事に多く気が付いて、今までとは全く違う風景に出会ったと思う。大事なのはこの体験をしてからどうするかであり、皆さんにはそこのところを考えていただきたい。皆で様々な体験をしてみると、色々な楽しみ方が見つけられる。駄目な事をプラスに変えられる工夫が必要である。

店舗やホテルに段差があるなど、まだバリアフリーが完全にできてないところもあるが、ど このホテルに行ってもスタッフさんは困っている人を見つけるとすぐに声をかけてくださった り、挨拶などもしっかりされているので、人的な対応については教育がきちんとされていると 感じた。そういう部分では心配ないと思う。

雲仙に訪れる人をどのようにハッピーにできるかが最も重要である。雲仙の良さをどう伝えるかというところを是非皆さんで知恵を絞り、雲仙プラン100にも反映していただきたい。

(5) ユニバーサル化に向けてのポイント

以上の調査対象施設全般について、今後ユニバーサル化を図っていく際に留意すべきポイントを以下に記す。

- ○まずはハード面について、基本的なバリアフリー化(階段や傾斜路には手すりを設置する、段差を解消するなど)を徹底して行う必要がある。
- ○長い園路には平坦部を設け(特に車椅子の方が止まって休みやすいように)、そこにベンチを置くことも必要。
- ○転倒の危険性が高い(滑りやすい)園路が少なくない。手すりの設置や、注意喚起のサインの 整備も必要である。
- ○手すりは、高齢者でなくても、膝や腰が悪い人にとっても必要。また手すりがあることが、向こうへ何とか行ってみようという動機付けになる。
- ○多機能トイレが少なく、その案内も少ない。トイレの質はユニバーサルデザインの基本。
- ○雲仙で提供できるサービスをまとめて情報提供することが望ましい。
- ○非常時や災害時の際の来場者への情報提供方法が課題。電光掲示板とアナウンスなど複数の情報伝達手段があった方がよい。
- ○五感で楽しめる工夫がもっとあってよい。障害者だけでなく一般の人にとっても、わくわく感があり環境を楽しめるものになるはず。そのような体験ができる見せ方や、ガイドがあってよい。
- ○楽しさや気持ちよさを感じられことがユニバーサルデザインにおいては非常に重要。歩いても 楽しくない遊歩道があってはいけない。
- ○ハードの対策を進めた上で、ソフト(人的対応等の仕組みづくり)とハート(心遣い)が必要となる。
- ○こらのことを住民同士が話し合う場をつくり、共通認識を持ち、改善策を進めていくことが望ましい。